

## 世界の動く仕組み (1) (私たちのタコ壺構造について)

第 33 回 STS 研究会 2012/09/05 資料 (伊藤) 改修

「世界の動く仕組み」は「How the World Works」(Noam Chomsky) から借りたタイトル。世界を動かしている基本的な要素を縦系・横系として表現し、それによって紡ぎだされている多様なタコ壺の世界に私たちは生きていることを指摘。そこにトラップされている私たちの姿をまずは鏡に映してみよう、社会の縛りが緩くなった“老人”こそ、それが出来ると主張する。

### 世界の動きの基本 (縦系)

私有財産権 (私有財産制)

私有財産権のルーツは農耕の発祥に求められる。貨幣が発明されると私有財産権が一層明確な形を取り、争い合い奪い合う対象になる。

人が生きるための手段 (土地・生産財・生産物・・・水<sup>1</sup>) を支配することによって、持たない者を支配することができる。財産を持つ者が社会を支配する基本は、古代から現代にいたるまで変わっていない<sup>2</sup>。土地・生産財などリアルな財産に加えて、今ヴァーチャルな財産 (マネー、知的所有権) の私有化が付加されて、欲の種が尽きない。

資本主義

1. (産業革命以降) 労使対立 階級妥協 新自由主義 (グローバリズム) …と、時代とともに少しずつ形が違ってきているが、経済に於いて優位にあるセクターと支配されるセクターの階級闘争という構造は変わっていない。
2. 資本主義は基本的に“収奪”(内向けでは支配される層を収奪し、外向けでは帝國的主義的収奪) することによって成り立ってきた。
3. 市民は「労働し消費する者」として飼育され、消費欲が注入されている (その為にメディアなどが最大限活用されている 横系 )

不必要な商品・まやかし商品・エセ商品であっても経済を回転させる限り許される。

軍産複合体・アグリビジネス・ビッグファーマ・金融資本などの巨大資本がグローバル社会化の中で行っている醜い活動の姿をここで個々に追うことは後に譲る。しかし、世界に食は足りているのに飢える人々が多い理由 (飽食と飢餓)、品種改良・遺伝子組み換え作物による農村破壊、医薬品産業の搾取的構造、水さえも資本主義商品化する実態、富裕層と貧困層の格差増大、投資・投機による市場の不安定<sup>3</sup>、世界中の国々の債務超過と WTO などの介入による第三世界の財務破綻、それに乗じた火事場泥棒的収奪 (shock doctrine<sup>4</sup>) の数々、NAFTA や TPP・・・これらに通底しているものを見なくてはならない。

帝国主義

帝国主義を大航海時代からたどるとして、19 世紀～20 世紀前半は地球の分捕り合戦であった。日本は“黒船”によって帝国主義競争の世界に目覚め<sup>5</sup>、日清・日露戦争によって“一等国入り”をしたつもりが、自己盲信によって破綻した。

アメリカは第一次世界大戦以降力を得、第二次世界大戦によって世界の警察国家として君臨した。ゴッドファーザーが抑圧の源であるように、アメリカは世界で軋轢の種を

<sup>1</sup> 近未来的には、水や空気さえも資本によって支配されることが危惧されている。

<sup>2</sup> しかし、イスラム社会・ヒンズー社会のように互助精神の豊かな社会もあった。富を得た者は貧しい者に施すべきであるとされる。街の通りには水の入った壺があり、誰でも自由に飲めるようになっている(いた)。・・・イラク戦争後アメリカがイラクに進駐してきたとき、市民に水が配給されなくてはならなかったが、米軍はイラクの市民に、その水は金と引き替えに支給すべきものと教えた云う。アングロサクソンの常識は地元文化を破壊していく。

<sup>3</sup> もしアナタがこの資本主義社会での投機のチップケなゲーマーとして参加しているなら、世界の動きを客観視する足場を確保できないだろう。

<sup>4</sup> Naomi Klen による著書のタイトル、惨事便乗型資本主義と訳されている。

<sup>5</sup> 福沢諭吉の「脱亜入欧」は「帝国主義競争参入へのすすめ」である。

まき散らしている<sup>6</sup>。アメリカ帝国主義は私有財産権に基づく自由主義の守護者として振舞い、民族主義や社会主義はもとより、この自由主義に脅威を与えるモノは内外の何であれ、それが成功することを妨げ弾圧してきた<sup>7</sup>。

しかし「理想主義・アナキズム・人間主義・社会主義リバタリアン<sup>8</sup>」の縦糸もある。これらは人間の生き方についての原理的なヴィジョンである。これまで支配される側に常にあったこれらのヴィジョンは、その都度敗北してきたが、連綿としてあり、今後も有り続けるだろう。

この縦糸があることをもはや考えられないとして否定するのは、敗北主義ではないだろうか

## 世界の動きを支える横糸

政治を下僕化し君臨する経済界（「ダボス階級」<sup>9</sup>）

“生産と市場に関することは Corporatism<sup>10</sup>に一任せよ” “政府は市場経済に関与するな（小さな政府）”  
（・・・“しかし政府は経済界に協力し経済界を保護せよ”）

教育

一部の“有能な”者を特権階級に誘いあるいは奉仕させる選別が“教育”の実態である。

階級社会に組み込むための教育（例：英帝国のパブリックスクール）

官僚の養成（旧帝大） 専門バカの育成（ほとんどの大学）

（“真実を見る”こと “正しく考える”ことはないように<sup>11</sup>・教育する）

メディア

情報の隔離・誘導、（歪曲および隠された多くのこと）

Stupification（白痴化、人々に考える余裕を与えない）

タブロイド<sup>12</sup>、週刊誌、スポーツ紙、TVバラエティショウ、TVクイズ番組、どうでもイイ歴史探訪（歴女）・・・

宗教やオカルトも（私有財産権に無害である限り）容認。進化論を否定する非科学もかまうことはない。

<sup>6</sup> 北方領土問題はこの地域に緊張を形成しておくためのアメリカの作為が入っている。・・・日ソ国交回復に先立つ日ソ交渉（1956）で日本はハボマイ、シコタンを取り、（既にサンフランシスコ講和条約で放棄させられていた）エトロフ、クナシリをソ連に渡す姿勢であったが、アメリカはそれなら沖縄を占領するとして圧力をかけている（「戦後史の正体」より）。北朝鮮の孤立化についても同じようなアメリカの作為が感じられる。北朝鮮による日本人拉致問題について、緊張を創り出しているアメリカに支援を求めることは妥当か？

<sup>7</sup> キューバ革命、サンディニスタ（ニカラグア）など中南米の民族主義的な改革運動はことごとく妨害され弾圧された。例はいくらでもあげることができる。最近のイラクのフセイン政権、リビアのカダフィ政権（民主主義的とは言い難かったものの民族主義的であった）も同じように、欧米に好ましくなくなったが故に破壊された。（欧米にとって役立っていた間は、同じ専制政治ではあっても、咎められることなく友好的に迎えられていたのである）

<sup>8</sup> 資本主義リバタリアニズムと社会主義的リバタリアニズムは正反対のもの。前者は、自由な市場で勝手にやらせる（“レッセ・フェール”） 国家は小さくなって市場活動を支援する以外の余計なことはするなと主張する（・・・そして窮地に陥ったら助けて！とも言う）。後者は“人間主義”（バートランド・ラッセル）や社会主義アナキズムに通じる。

<sup>9</sup> 「ダボス階級」はスーザン・ジョージの造語。毎年1回スイスの保養地ダボスで開催されるダボス会議（正式呼称は世界経済フォーラム年次会議：WEF）に集まって経済や社会について意見交換する世界の経済界のトップや学者・政治家を、世界を牛耳るセクターの代表であるとした、代名詞的な表現。

<sup>10</sup> コーポラティズムについては本「世界の動く仕組み」シリーズ-その2で扱う。

<sup>11</sup> 真実を語らない学者を揶揄して「東大話法」（「原発危機と東大話法」）という言葉がある。

<sup>12</sup> 英国では、19世紀以来タブロイド版の新聞がstupificationの役割を果たしてきた歴史がある。事実をゴシップ、センセーションに曲げるメディアの手法をtabloidismと言う。

メディアと教育を掌握していさえすれば（そして学者がおとなしくしている限り<sup>13</sup>）  
どんな考えでも世間に流布させることができる<sup>14</sup>。  
労働者に余裕を与えない（働かせて疲れさせる）<sup>15</sup>ことも stupification に必須である。

「合意の形成」(engineering of consensus、アメリカの“広報活動の父” Edward Bernays が  
編み出した“大衆の考えを操作する”技術)

…一般市民の大部分は愚かである。彼らが自分たちの問題の解決に参加しようとする  
ば面倒を引き起こすだけだ。このような迷える群れは適切に管理されなくてはなら  
ない…という認識が基本にある。

一部の“優秀な”人を責任ある特権階級へと組み込む一方で、残りの群れの注意を逸  
らしておくための技術が必要である<sup>16</sup>。

“理性は極めて限定された能力で、それを持っている人は少数である。大半の人間は感情と衝動  
によって行動している。理性を持った人間は「必要な幻想」を創り出し、人の感情に訴える「過  
度の単純化」を提供して純真な愚か者たちを逸脱させないようにしなくてはならない。(Reinhold  
Niebuhr：外交評論家、ケネディ政権の政策に影響を与えた。)

### 科学技術 / 専門化

科学技術を、“ヒト”にではなく、(自由市場・グローバル化)経済システムに奉仕さ  
せるベクトルに向けている。そこでは、科学技術者の労働者化、研究者の stupification  
(専門バカ)が貫徹している。

### 軍事

軍隊は、自国民保護・防衛のためであるよりも、企業保護と侵略のために機能してき  
た。私有財産権・既得権保護のためであれば、軍隊は自国民にさえも向けられる。  
ペンタゴンは、航空機産業を中心とする複合産業の保護者、私有財産の防衛を最大限  
に追求するための侵略活動の尖兵である<sup>17</sup>。

## 現代語 字典

ここでは、我々の言葉・認識が如何に歪曲されているかを見るために、現代のいくつかの  
用語について本来の意味と裏の意味を比較する。

### 民主主義

(本来の意味)

- ・権力は人民に由来し、権力を人民が行使するという考えとその政治形態(広辞苑)。
- ・一般の人びとが自分たちの問題を自分たちで考え、その決定にそれなりの影響をおよ  
ぼせる手段をもっていて、情報へのアクセスが開かれている環境にある社会  
(Chomskii)。

(裏の意味)

- ・企業およびエリートで構成するセクター(「ダボス階級」)が社会の事柄を決定する。  
公衆は参加者ではなく、承認させられるか選択させられるだけ。  
「米国の目的は、トップダウン型で統制の行きとどいた民主主義を作り上げること、  
そして、企業とその支持者からなる従来の権力構造を守ることである。それが昔か  
らの社会構造を侵すものでない限りどのような民主主義を導入してもかまわない。  
一方、支配者の既得権を侵害するような民主主義は決して許されることが無い。(レ

<sup>13</sup> 実際、大学は「知性と批判の府」の役割を果たしておらず、信頼できない。

<sup>14</sup> 実際、成功している！

<sup>15</sup> 社会のどの階層の人たちも、大して重要な仕事はしていないのに、いつも疲れているのはなぜだろう？

<sup>16</sup> もちろんこれはプラトンの「哲人政治」とは違う、非哲学で人倫にもとる操作である。現代資本主義に  
はこのような「合意の形成」=「大衆の操作」があることを知ることは基本的に重要なことである。

<sup>17</sup> 1970-80年代の中南米の民族主義的な民主化運動を転覆したのは、私有財産権を脅かす「民主主義」が  
成功することを妨げるため。このような転覆活動は現在の中東の混乱の背景にもある。

- ーガン政権で「民主主義助成プロジェクト」に関わったトマス・キャロザースの言として引用されたもの）[これは実は全体主義、ファシズムであると Chomsky は云う]
- ・一般の人びとは（能力がないのだから）彼ら自身の問題に決して関わらせてはならず、情報へのアクセスは一部の人間の間だけで厳重に管理しておかなければならない<sup>18</sup>。

## 平和

- ・（本来の意味）やすらかでやわらくこと。戦争が無くて世が安穩であること（広辞苑）
- ・（USA の平和）「われわれは平和を愛する国だ」「アメリカは世界で最も自由な国だ。この国は根本的な正義の理念に基づいているのだ。憎悪を拒絶するのだ。暴力を拒絶するのだ。殺人を拒絶するのだ。悪を拒絶するのだ。」（2001/10/7 アフガニスタンの空爆を開始した時のブッシュ大統領の言葉。）

## 自由

- ・（本来の意味）社会生活で、個人の権利（人権）が侵されないこと。
- ・（USA の自由）“ 国境の内では、言論・宗教・思想・芸術的表現・食事・性の好み…の（見せかけの<sup>19</sup>）自由…国境の外では、支配する自由・屈従させる自由…アメリカの本当の宗教である「自由市場」の御用に資する自由… ”（アルンダティ・ロイ）

## 自由の敵

- ・（第三世界の多くは）USA を中核とする西側が彼らを抑圧していると理解している。
- ・（USA にとっては）USA が“ 敵 ” と名指したモノは何であれ “ 自由の敵 ” である。なぜなら、アメリカこそ “ 自由の国家 ” なのだから。  
「アメリカ人なら問うだろう、なぜ彼らは我々を憎むのか？と。彼らはわれわれの自由を憎んでいるのだ。われわれの信仰の自由、表現の自由、選挙をし互いに意見を異にする自由を」（2001/9/20 合衆国下院議会でのブッシュ大統領の演説）

## 自由経済（free enterprise）

- ・（本来の意味）市場経済は、生産と配分という根本機能においては他の経済システムより優れていると考えられる。ただし、不適切な市場参加者が排除されることが前提とされる。
- ・（裏の意味）（自由の名の元に）公的資金を用いて助成しつつ私的利潤の保護を行い、もって富裕層の保障を行う経済行為。
- ・（新自由主義）一握りの私的な利益集団が社会生活を可能な限り支配し、彼らの利益を最大化することを恥ずかしげもなく公言できる政治経済のパラダイム<sup>20</sup>

## 侵略からの防衛

（裏の意味）= 侵略

「我々は、南ベトナムの農民を “ 内部からの侵略 ” から守っている」（1960 年代アメリカが南ベトナムを攻撃したときアメリカ上院議員 Aldai Stevenson の言葉）

USA と傀儡政権は、南ベトナム農民がゲリラを支援していたことを “ 内部からの侵略 ” と見、“ それから防衛するために ” 農民たちを隔離して集中キャンプに追込んだ。そのような状態でも農民達は米国防空軍と米国が支援する傭兵を相手に戦った。当時国防長官であったマクナマラは後日ベトナム戦争を反省したが、“ 侵略 ” であったと反省したのではなく、正しく処理（侵略）できなかったことを反省したのである。

---

<sup>18</sup> 17 世紀の初期の民主主義革命（イギリス）や独立戦争当時のアメリカでも、明治・大正時代の日本でも、社会の決定に参加できるのは、社会的な地位のある人に限られるとされていた。現在の「民主主義」はこのような階級意識を引きずっている。

<sup>19</sup> この見せかけの自由を上手に演出する技術が、教育・メディア・「合意の形成」などである。

<sup>20</sup> 新自由主義の切り札は、他に代る案が無いということ。共産主義社会も、社会民主主義社会も、昔の米国のようなささやかな福祉国家もみな失敗したではないか、と新自由主義の擁護者は強弁する。

## 和平プロセス (Peace Process)

- ・(本来の意味) 平和に向かう努力  
サダト大統領(エジプト)が1971年に提案したイスラエルとの全面的平和条約。  
1976/1の国連安全保障理事会決議案: パレスチナとイスラエルの二国を承認することで紛争を解決しようという内容、アラブ諸国が提案しPLOが支持した。  
1980年代を通してPLOが提案し続けた、相互承認のための対イスラエル交渉。  
国連総会で毎年行われた、イスラエル・アラブ問題に関する国際会議の提案(1990/11の提案は賛成144 反対2)・・・これらは平和に向かう努力であった。
- ・(裏の意味)  
USAのやっていることに沿わないものは和平プロセスとは見做さない。  
USAは、イスラエルのサダト提案拒否を支持、1976の相互承認に拒否権を発動、国連総会その他の場における平和的外交的解決のどのような試みも粉碎してきた。

## 社会主義

- ・(本来の意味) 人間の基本的な必要性と人権のために、人々自らが社会の制度と生産を管理するシステム
- ・(ソビエト連邦での意味) 1917年10月の革命以後レーニンに率いられたボリシェビキは徹底した中央集権による組織統制を行った。ボリシェビキはこれを**社会主義**と名乗ったが、それは本来の意味での社会主義ではなかった。(その10年以上前バクーニ<sup>21</sup>は、知識階級による革命は権力を獲得して圧政的な赤色官僚機構をつくるか、それが失敗したら、資本主義国家の経営者が代弁者になるだろうと言った・・・歴史はバクーニンの言った両方をたどっている。)
- ・(西側での意味) リバタリアン的な理想主義がボリシェビキの牢獄として失敗している姿を、「あれが社会主義だ」と論難して、より良い社会への信念を砕こうとする。

## 社会保障制度

- ・(本来の意味) 国民全員が最低限の生活を送れるように、皆で支えあおう。
- ・(USA 共和党での意味) 自分のことは自分で責任を持て。金をもってくれば保障制度があるのだから。

## 欲望

- ・(モトの意味) 不足を感じて、これを満たそうと望む心。欲望の過多は恥ずべきこと。
- ・(経済学) 人間の欲望は無限であることを前提としている。その無限の欲望に向かって工業製品を注ぎ込むことが経済学の課題だと勘違いしている。
- ・(富裕層) すべては自分たちに、他の者にはゼロ。Winner takes all. <sup>22</sup>

## 考察

私たちは上に述べた意味での縦糸と横糸で妙みに創出された(仕掛けられたの)世界に生きている。それが社会生態学的な意味で我々のニッチ<sup>23</sup>である。ここではこれをタコ壺と言う。私たちはトラップされ、何が本当に起こっているのかよく見えないまま、それぞれのタコ壺に生きている。「ダボス階級」がタコ壺構造を作為している面も否定できないが、私有財産権という誰もが持っている“欲望”故に、タコ壺が自生的に生成されている面もあるのではないだろうか？

だから人は、堅固な理性をもって“世界の動く仕組み”を見抜く努力をし、自らのタコ壺にはまっている姿を客観化し、欲望を克服する覚悟をしなくてはならない。この世界の仕組みに組み込まれてタコ壺の中にいる私たちが、井の中の蛙のように世界を狭くかつ

<sup>21</sup> 「社会主義なき自由は特権であり不正であるが、自由なき社会主義は隷従であり野獣性である。」(バクーニン)

<sup>22</sup> “Good breeding consists in concealing how much we think of ourselves and how little we think of the other persons.”とMark Twainが皮肉った偽善さえも、今はかなぐり捨てている。

<sup>23</sup> niche: 空いている場所、生物が生態系の中で占める位置

眼鏡で見ているだろうことを、自覚しなくてはならないということだ。そのように自分を客観化し、深く勉強して、世界のこのタコ壺構造のどのポジションに自分は居るのかを、先ず見るべきである。

自分のタコ壺状態を知ることはツライことになるだろう。例えば会社人間がそのポジションを知ったからと云ってどうなると云うのか？ 真実を見ない・聞かない・云わないようにし、批判精神を抑制しなくては生きていけない・・・それが現実的な处世である。そしてそれが人々を *stupidify* して支配しようとする側の思う壺なのだ。

しかし、見ない・聞かない・云わないと抑制することと、思考を麻痺させることとを混同しないことにしよう。臥薪嘗胆の姿勢を維持して、必要な時には抑制を解いて発言し社会に影響を与えるべく虎視眈々と生きることが肝要だ。そういうことは社会の縛りが緩くなった老人になると、まだ思考が麻痺していなければだが、余程やり易くなる。だから“晴れて老人” となったらボヤボヤしてはいけない。

“現代の老人” の在るべき姿をこのように観じるならば、老人こそ希望の星であることが分かる。だから、老人はもっと知ることに飢えて勉強すべきである<sup>24</sup>。批判精神を麻痺させた老人で終わってはいけない。

#### 参考書

- 1) Noam Chomsky “How The World Works” (Penguin Books)
- 2) *ibid.* 「アメリカが本当に望んでいること」(What Uncle Sam Really Wants)(現代企画社, 1994)
- 3) *ibid.* 「金儲けが全てで良いのか・グローバリズムの正体」(Profit Over People)(文芸春秋社, 2002)
- 4) *ibid.* 「9.11 アメリカに報復の資格はない」(文春文庫, 2002)
- 5) *ibid.* 「メディアコントロール」(集英社文庫, 2003)
- 6) *ibid.* 「秘密と嘘と民主主義」(Secrets, Lies and Democracy)(成甲書房, 2004)
- 7) *ibid.* “Making The Future – Occupations, Interventions, Empire and Resistance”, (City Light Books, 2012)
- 8) ハワード・ジン「学校で教えてくれない本当のアメリカの歴史(上/下)」(あすなる書房, 2009)  
Howard Zinn “A People’s History of The United States” (Harper Perrenial, 2001)
- 9) ナオミ・クライン「ショック ドクトリン」(Shock Doctrine)(岩波書店, 2011/9)
- 10) スーザン・ジョージ「これは誰の危機か、未来は誰のものか---  
---なぜ1%にも満たない富裕層が世界を支配するのか---」(岩波書店, 2011/12)
- 11) アルンダティ・ロイ「帝国を壊すために-- 戦争と正義をめぐるエッセイ」(岩波新書, 2003)
- 12) ポール・ロバーツ「食の終焉」(The End of Food)(ダイヤモンド社, 2012/3)
- 13) 孫崎享「戦後史の正体 1942-2012」(創元社, 2012/8)
- 14) 堤未果「政府は必ず嘘をつく」(角川SSC新書, 2012/2)
- 15) 安富歩「原発危機と東大話法」 明石書店, 2012

---

<sup>24</sup> 年金貰ってノウノウと生きるのもったいない。